

### 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月29日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675300141号		
法人名	医療法人 健育会		
事業所名	グループホーム つどいの家		
所在地	鹿児島県 始良郡 始良町 鍋倉 224番地 1 (電話) 0995-66-3533		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年6月25日	評価確定日	平成21年7月12日

#### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員は地域密着型サービスとしてのグループホームの役割や重要性について研鑽し特性にそった支援をしている。また利用者本位で一人ひとりのペースを尊重し、言葉かけや細心の対応で支援している。入居者の思いや意向を汲み取り、野菜作りや保育園児とのふれあいの機会を作るなどその実現に取り組んでいる。その人らしい暮らしを提供して、入居者や家族から喜ばれ感謝されている。母体が医療法人であり、健康管理体制が整い往診などもあり、入居者・家族は安心して暮らしている。

#### 【情報提供票より】(平成21年 6月 1日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 13 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人 非常勤3人	常勤換算15.25人

##### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	〇無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1000 円

##### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大井病院・たけうちクリニック・竹内レディースクリニック・竹内歯科
---------	----------------------------------

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題の災害対策については、災害に備え水や食糧を準備し、職員を育てる取り組みについては、年間計画や新人教育計画を作成し共に改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価について勉強会を開き、ねらいや活用法など理解を深め、全職員で取り組んでいる。評価を通してケアの見直す機会と捉え、サービスの質向上に活かしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議での話し合いが、地域の情報提供やボランティアに繋がりと、災害対策への協力など、地域住民との協力関係が築かれている。運営推進会議の内容を職員も共有し、サービス向上に活かしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情・相談窓口、第三者委員を明記し説明している。面会時に意見や要望を話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。意見等はミーティングで話し合い運営に反映させている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	⑥	自治会行事の運動会や鬼火焚きなどに参加したり、老人会のサロンに参加している。保育園児やボランティアとの交流や、近隣住民から野菜や卵をいただくなど、地域の人々との積極的な交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるように支援していく事を目指し、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示し、パンフレットにも明示している。毎日の申し送り時に唱和し、全職員で共有し、理念に基づいたサービスの支援に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事の運動会や鬼火焚きなどに参加したり、老人会のサロンに参加している。保育園児やボランティアとの交流や、近隣住民から野菜や卵をいただくなど、地域の人々と積極的に交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について勉強会を開き、ねらいや活用法など理解を深め、全職員で取り組んでいる。職員が項目に添ってケアを見直す機会と捉え、サービスの質向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により、地域からの情報を得たり、委員によるボランティアに繋がり、災害対策への協力など、地域住民との協力関係が築かれている。運営推進会議の内容を職員も共有し、サービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは、ホームの状況報告や相談などで連携を取り、サービスの質向上に取り組んでいる。キャラバンメイトの研修など町担当者と協力して実行している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等で入居者の様子や健康状態を報告している。一人ひとりの写真や状況報告、お小遣いの明細報告書を作成し、個別の月便りを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口、第三者委員を明記し説明している。面会時に家族から意見や要望を話してもらえよう雰囲気づくりに努めている。意見等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は最低限に抑え、採用時は経験者を優先している。引継ぎは時間を充分とり、入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画や新人研修の計画など作成している。法人内やホーム内の勉強会も実施している。研修後は報告書を作成し、ミーティングで報告し、全職員で内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者のつどいや地域の連絡協議会・研修会などに参加し、問題点や課題を話し合い交流している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には見学を勧め、面会に出かけたり、顔なじみになるよう努めている。生活歴を把握し、ホームの雰囲気に馴染めるよう家族と相談して工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は寄り添いながら生活を共にし、支えあっている。野菜作りやラッキョウ漬け等の保存食作りなど、教えてもらいながら一緒に作ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、レクリエーションなどの活動を通して、入居者の思いや意向に気づき把握するようにしている。困難な場合は動作や表情などから把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に意見や要望を聞き、主治医や看護師との連絡ノートなどを参考に、全職員で話し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングでモニタリングを行い、3ヶ月毎に評価を実施している。本人の状態や家族の要望など考慮し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による24時間の健康管理体制のほか、通院介助や自宅訪問・墓参りなど、特別な外出を家族と相談して支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力病院の往診などもあり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応についての指針を作成し、入居時に説明し確認している。状態を見ながら家族や主治医・職員で話し合い、方針を共有し対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りなどの時は入居者に配慮した報告を心がけている。職員の採用時に誓約書を取り、個人情報の保護を徹底するよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など入居者のペースに合わせて支援している。レクリエーションなども無理強いせず、一人ひとりのペースを大切に、安心して過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや盛り付け・食器洗いなど、できる事をしてもらっている。嗜好調査を実施し、誕生日などは入居者の希望の献立を把握し、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する時間帯に、職員と対話をしながらゆっくりと入浴している。菖蒲湯や柚子湯など、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りや裁縫・編物など生活歴を活かした役割や、町の移動図書館の本を借りたり、新聞や週刊誌を読んだり、行事のとき化粧やおしゃれをするなど、楽しみや気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に配慮し、散歩やドライブなどに出かけている。午前中や夕方など玄関のベンチで過ごし、通りがかりの方々との楽しいふれあいもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、外出傾向の入居者への連携や、一緒にさりげなく同行するなど工夫し、鍵をかけないケアを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回地域住民の協力を得て、避難訓練や消火訓練を実施している。災害に備えて食糧や水など必要なものを準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体医療機関の栄養士が作成した献立を参考に調理し、栄養バランス等配慮している。水分や食事量など記録し、とろみ食やおかゆなど一人ひとりの状態にあった支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを中心に居室があり、テレビの前にソファを配置したり、和室は家庭的な雰囲気である。玄関入り口には季節の花が植えられ、居心地良く過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテーブルや椅子・テレビなどを持ち込み、家族の写真やぬいぐるみ・色紙などを飾り、本人が居心地よく、安心して暮らせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。